

伊藤照手 岩崎孝正 川名まこと 川村智美 木村グレゴリオ Yako Kimura 小森はるか 酒井 耕 佐藤貴宏 鈴尾啓太

イメージの 家を歩く

2014年11月15日(土)
～2015年1月12日(月)

※11月27日および12月29日から1月3日は休館

11時～20時

せんだいメディアテーク
6階ギャラリー4200

一般(大学生・専門学校生含む) 100円

高校生以下無料

(豊齢カード、障がい者手帳をお持ちの方は半額)

 せんだいメディアテーク
sendai mediatheque

瀬尾夏美 高野裕之 高橋哲男(Jai) 長崎由幹 中村友紀 濱口竜介 早川由美子 藤井 光 細谷修平

展覧会参加作家

伊藤照手

1990年埼玉県生まれ。東北大学文学部卒業。震災を機に原発反対運動などの市民活動に関わる人のフィールドワークを行う。同時に、「3がつ11にちをわすれないためにセンター」に参加し、初めての映像記録「声の届き方」(2011-2012)を制作。



木村グレゴリオ

1971年岩手県久慈市生まれ。仙台市在住。大学卒業後、映像制作会社で働きながら制作活動を開始。2011年より「3がつ11にちをわすれないためにセンター」に参加。被災地の定点撮影や人物インタビューを中心に記録を続けている。現在は公益法人に勤務する傍ら、震災後の東北地方のアマチュアスポーツの現状に関する映像を制作中。

酒井耕

1979年長野県生まれ。映画監督。現在の活動拠点は東京。東京農業大学在学中に自主制作映画を手掛け、卒業後、社会人として働いた後、2007年に東京藝術大学大学院映像研究科修了。修了制作は『creep』(2007)、『ホームスイートホーム』(2006)の他、濱口竜介と共同で『東北記録映画三部作』(2011-2013)を監督。現在はせんだいメディアテーク「民話 声の図書室」の伝承民話の映像記録活動に携わっている。

岩崎孝正

1985年福島県相馬市生まれ。震災後より、おもに福島県の祭りと地元の村の人々の活動を記録している。「いのちの食べかた」(2005)で知られるニコラウス・ゲイハルター監督の福島取材に協力。現在は東北芸術工科大学大学院デザイン工学部映像学科在籍。おもな作品に『福田十二神楽』(2013)、『福島的光景』(2013-2014)など。

川名まこと

1960年宮城県仙台市生まれ。ウェブを中心としたコミュニケーションデザインの企画プロデューサーを行う。2011年東日本大震災直前からせんだいメディアテーク「ことりTV」ワークショップに市民ディレクターとして参加。震災での近所の宅地被害を記録したドキュメンタリー「傾いた電柱」(2011-2012)が初作品となる。

川村智美

1982年宮城県石巻市生まれ。東北芸術工科大学情報デザイン学科映像コース卒。視覚と触覚の関係性を「Fitting Room」(2005)で表現し、デジタルスタジアム入選。2002年よりブログによる写真日記をはじめ、2011年5月から家と家族にまつわる記憶の記録「このあしもとにつづく」を発表している。

Yako Kimura

1969年宮城県仙台市生まれ。せんだい演劇工房10-BOX「夏の学校」のアートディレクター・兼講師。1999年にフランスのジャック・ルコック国際演劇学校「動きの実験室」を卒業。海外を拠点に暮らしながら、東日本大震災後は「社会空間に起こる動き」をテーマにクリエイティブ・アクションとして多様な活動と提案に取り組む。

佐藤貴宏

1978年山形県生まれ。多摩美術大学映像演劇学科卒。複数の実験映画を発表後、2011年6月から2013年までの約2年間「3がつ11にちをわすれないためにセンター」の仕事に携わる。現在は映像表現による社会実践の新たな可能性を探るため、東京藝術大学大学院映像研究科に在籍。

小森はるか

1989年静岡県生まれ。映画美術学校修了。東京藝術大学大学院在籍。映画、映像作品を制作。2012年より、大学時代からの友人である瀬尾夏美と共に岩手県陸前高田市に拠点を移す。現在は地元に住む人々や町の日常を記録し、ドキュメンタリー映画を制作している。

鈴尾啓太

1985年山口県下関市生まれ。映像編集者。山口県立大学卒業後、カメラマン山崎裕氏の下で編集を行う。現在はおもにテレビドキュメンタリーの編集を行い、萩生田宏治監督のテレビ作品や梶裕和監督のテレビドラマにスタッフとして参加する傍ら、自主映画や劇場映画の編集も行う。2011年より「3がつ11にちをわすれないためにセンター」に参加。



記録と想起

対話の可能性 イメージの家を歩く

東日本大震災の後、まもなくして、せんだいメディアテークは、この未曾有の出来事を映像などで記録する活動「3がつ11にちをわすれないためにセンター」(以下、わすれん!)をはじめました。せんだいメディアテークは、メディアとは何かということを確認しながら、その活用を実践していく場所です。震災に直面した当館は、その役割に立ち返り、TVや新聞には扱われようのないほどに繊細な、被災下の日々の生活を記録しようと考えました。「わすれん!」は、専門知識の有無に関わらず、記録を公に開く意志を持った人が参加する仕組みです。ですから技巧的な演出よりも、被災下の生活者の目線に沿うことを大切にしたい記録が多く、それらには災害と向き合う人の姿が自然なかたちで現れています。

メディアテークではこの活動をとおりて、普段は無自覚的な情報の消費者であるわたしたちが、自ら意識的にメディアを用いることで、メディアによって拡張された自分の身体を再発見できるのではないかと考えました。そして、最新のメディアに身を任せ、操られるように振る舞うのではなく、人間の身体を基本とした日々の生活の中に、それらの技術を再配置することへつながるのではないかと考えたのです。

2011年から2012年にかけて、このような震災後のメディアテークの活動に賛同して集った人たちの拠点となるべく、「わすれん!」のスタッフのひとりが自宅を共同生活場所として開いていました。毎晩その台所では、記録や表現について議論が交わされ、やがてそれはすぐれた活動成果へと結実していきました。生活の重要な部分をつかさどる台所には、衣食住と表現活動を不可分とする身体の本質が現れてくるのかもしれませんが。本展では、このような充実した対話の場としての生活空間の可能性を展示として活かし、「わすれん!」の記録と対面する、映像のための家をつくり出します。そして、さまざまな記録映像と連続する生活空間のなかに、震災を経たいまこそ希求される「メディア・リテラシー」(メディアの読み書き能力)

の切実な在り方を問いなおそうとするものです。

瀬尾夏美

1988年東京都生まれ。東京藝術大学大学院修了。美術家。2012年より、大学時代からの友人である小森はるかと共に岩手県陸前高田市に拠点を移す。現在は沿岸の写真館で働きながら、地元の人々の言葉の聞き書きを行ったり、絵画やことばによる風景の記録を続けている。

高野裕之

1980年宮城県仙台市生まれ。土木建設会社を経営。2011年より「3がつ11にちをわすれないためにセンター」に参加。震災直後から従事したがれき撤去や災害復旧の様子を映像で記録している。2014年から地域に関わる映像制作を事業化し、ドローン(空撮ラジコンヘリコプター)を用いて被災地沿岸部の空撮なども行う。

長崎由幹

1985年宮城県仙台市生まれ。京都で修学後、2010年より仙台で活動する。ノイズやサウンドアートのライブなどのイベントを多数企画するとともに、震災後は「3がつ11にちをわすれないためにセンター」のスタッフとして宮城県各地の記録映像をつくる。2012年からはCLUB ADDを中心に、映像や音響の作家たちと、場の可能性をより実験的に追求する「ひどいイベント」を開催している。

濱口竜介

1978年神奈川県生まれ。映画監督。2008年、東京藝術大学大学院映像研究科の修了制作「PASSION」がサン・セバスチャン国際映画祭に出品され高い評価を得る。その後も「親密さ」(2012)、『東北記録映画三部作』(2011-2013)などジャンルや地域を横断する形で精力的に新作を発表し続けている。

高橋哲男(Jai)

埼玉県生まれ。2000年より宮城県仙台市在住。放送局に勤務する傍ら現代音楽、アークスモニウムの作曲から即興ユニットCorps sans Organe、Jai Machineなど幅広く活動する音楽家。楽器支援を通して「3がつ11にちをわすれないためにセンター」に参加。

中村友紀

1979年埼玉県生まれ。大学卒業後、映像の仕事をする傍ら、映像を用いたアクティビズムに興味を持ち、活動に寄り添ってカメラをまわす。ドキュメンタリー「素人の乱」(2007)を制作。発表。震災直後の石巻や名取などで、復旧活動をする人々を記録する。

早川由美子

1975年東京都生まれ。成蹊大学法学部、London School of Journalism卒業。留学先のロンドンでジャーナリズムを学ぶ傍ら、独学で映像制作をはじめ。これまでの作品に「ブライアンと仲間たち」(2009)、「さようならUR」(2011)、「木田さんと原発、そして日本」(2013)など。震災後、仮設住宅に暮らす人々のインタビューを行う。

細谷修平

1983年東京都生まれ。美術・メディア研究者、映像作家。和光大学大学院社会文化総合研究科修了。アート・ドキュメンテーションの一形態として、パフォーマンスや美術家、音楽家の活動の映像記録や、聞き取りを行っている。また、1960年代の芸術と政治、メディアを主たる研究テーマとして、調査及び映像による記録活動を継続している。

藤井光

1976年東京都生まれ。美術家・映画監督。パリ第8大学美学・芸術第三博士課程DEA卒。今日の日本の複雑な社会・政治問題を映像によって反省的に表現する。その多くは固定カメラで撮影される静的な映像を特徴とし、映画と現代美術の区別を無効にするその活動は国内外の美術館・映画館で発表されている。

有佐祐樹

1981年生まれ。成安造形大学映像学科卒業。コンセプチュアルアートの制作活動を経て、グラフィックデザイナー。前年から対話の可能性の広報などビジュアルの制作を担当する。

会場設計: 関本欣哉

1975年宮城県仙台市生まれ。東京芸術専門学校(TSA)卒。1990年代後半よりアート作品の制作、発表をはじめ。2010年より社会に繋がる表現の場として「ギャラリーターンアラウンド」を設立。2014年に行為・行動する表現を目的としたレーベル『ネオ・ノイズム・オルガナイザーズ』を設立。建築デザインの仕事も手がける。



関 連 イ ベ ン ト

ギャラリーツアー

メディアテークの学芸スタッフや本展参加作家と一緒に展覧会をみるツアーです。

日程: 11月16日、23日、12月7日、14日 ※すべて(日)

時間: 14時から16時

人数: 各回10名

対象: 小学校高学年以上

参加費: 無料(展覧会チケットが必要です)

参加方法: メールまたはFAX にて希望日・氏名・住所・年齢を記載し、前日までに「記録と想起展係」までお申し込みください。定員に達した場合は、抽選となります。

mail: office@smt.city.sendai.jp

FAX: 022-713-4482

台所の声 —よみかたり—

台所にまつわる詩をはじめとしたさまざまな言葉を、朗読をとおして声で鑑賞し、語り合います。

日時: 11月29日(土) 15時から17時

会場: 6階ギャラリー 4200 ホワイエ

参加無料、申込不要、直接会場へ

てつがくカフェ「震災とメディア技術」

私たちが通常当たり前だと思っている事柄からいったん身を引き離し、「そもそもそれって何なのか」といった問いを投げかけ、「対話」をとおして自分自身の考えを遅くすることの難しさや楽しさを体験していただくとするものです。

日時: 11月30日(日) 15時から17時

会場: 6階ギャラリー 4200 ホワイエ

参加無料、申込不要、直接会場へ

上映会

わすれん!参加者による映画作品と、同じく参加者で映画監督の濱口竜介が選定した作品をあわせて上映します。

日程: 12月19日(金)、20日(土)、21日(日)

会場: 7階スタジオシアター

料金: 各回500円

(12月19日は1000円でトークイベントを含む、12月21日は無料上映プログラムあり)

上映スケジュール

12月19日

19時から 『ASAHIZA』 監督: 藤井光 ※上映後トークイベントあり

12月20日

10時から 『なみのとお』 監督: 酒井耕、濱口竜介

14時から 『飯館村 わたしの記録』 撮影/監督: 長谷川健一、編集/構成: 細谷修平

『村に住む人びと』 監督: 岩崎孝正

17時から 『夜の女たち』 監督: 溝口健二

19時から 『ボンヌの恋人』 監督: レオス・カラックス

12月21日

10時から 『なみのこえ 気仙沼』 監督: 酒井耕、濱口竜介

13時から 『なみのこえ 新地町』 監督: 酒井耕、濱口竜介

16時から 『夏時間の庭』 監督: オリヴィエ・アサイヤス ※無料上映

主催

公益財団法人 仙台市市民文化事業団

助成

一般財団法人 地域創造

芸術文化振興基金



後援

仙台放送局

TBC 東北放送

仙台放送

ミヤギテレビ

KHB 東日本放送

河北新報社

朝日新聞仙台総局

読売新聞東北総局

毎日新聞仙台支局

産経新聞社東北総局

仙台リビング新聞社

S-style

エフエム仙台

FM76.2
RADIO3

お問い合わせ

せんだいメディアテーク 企画・活動支援室
〒980-0821 宮城県仙台市青葉区春日町2-1

電話: 022-713-4483

FAX: 022-713-4482

Email: office@smt.city.sendai.jp

せんだいメディアテークへのアクセス

地下鉄: 仙台駅から泉中央行きで3分、勾当台公園駅下車。「公園2」出口から徒歩6分。

バス: 仙台市営バス仙台駅前-29番(荘内銀行前)のりばから「定禅寺通市役所前」経由交通局大学病院」行きで約10分、メディアテーク前下車。

徒歩: 仙台駅より約20分。

タクシー: 仙台駅西口タクシー乗り場から約7分。

自動車: 東北自動車道仙台宮城ICから約10分。

航空機: 仙台空港アクセス鉄道・仙台空港駅から仙台駅まで約25分。



smt せんだいメディアテーク
sendai mediatheque